

駅が都会っぽくていい■にぎわい続いて■車がスムーズに

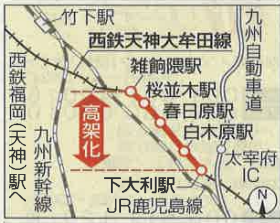
27日午後10時半 福岡(天神)駅 地上を走る最後の地下り電車が出発。雑餉隈1下大利用では、ラストランを見送る沿線住民が各地の踏切に集まっていた。

午後11時40分 雑餉隈の切り替えポイント 約1300人が作業を開始。50ほどのレールを人力で持ち上げて高架側につなげる作業や電線の接続が、夜通しで続いた。



切遮断機の撤去、新しい信号機の設定、横断歩道の施工などが同時進行。現場は未明とは思えない騒々しさ。現場責任者の1人は「終電が通り過ぎてすぐに作業に取りかかった。まさに始発までの時間との勝負。朝5時までには終わりたいのだが。」

午前5時20分 下大利用南の市道 レールの撤去や舗装が終わり、通行止めが解除された。踏切があった場所には「停止不要の看板があった。車はスムーズに通過するよう



待望の高架化 沿線沸く



線路の高架切り替えが完了し、下大利用駅に到着した西鉄の始発電車。多くの住民や鉄道ファンも出迎えた (撮影・穴井友梨)

午前6時半 下大利用の切り替えポイント 試運転の電車が高架線路にゆくり進行。前日夜から待機していた地元の高校生4人は脚立に上り、一眼レフのカメラで記念撮影。「この日を守っていた」と感激。大野城市は前後から動画投稿サイト「ユーチューブ」で作業風景を生配信。早朝にもかかわらず十人以上がリアルタイムを覗いた。再生回数は4万回を超えた。

午前7時50分 大橋駅(福岡市南区) 始発電車に乗っていた鉄道ファンで久留米市の中学生石橋虎ノ助さん(12)は「雑餉隈の切り替えポイントで作業員が車両に向かって駆け上っていた。その頃、同駅から南に2駅の二日市駅(筑紫野市)ホームでは、多くの親子連れが始発上り電車を待っていた。

午前7時半 上り始発電車内 高架区間に入る。車窓からは、沿線のマンションのベランダから高架線路を走る電車をしたり撮影したりする住民の姿が見えた。

午前11時50分 博多区のごさんびあ博多 高架化を祝う式典に参加した雑餉隈発展期成会の平山清子会長(80)は、約20年前に新駅開設を西鉄と福岡市に要望。この日を迎えられ、「涙が出てくる。やっとここまで来た」。新駅「桜並木駅」は2024年春までに開業する。「これから大事、次の世代につないでいきたい」



⑥午前6時半、下大利用の高架切り替えポイントを初めて走る試運転車両を撮影する地元住民ら



⑦下大利用近くの切り替えポイントで、試運転する電車の手を振ったり拍手したりして迎える人たち (撮影・穴井友梨)

「アップカット。式に先立ち太鼓演奏を披露した地元の「南子太鼓」の久間生樹信代表(65)は「駅が都会っぽくていいんじゃないですか。福岡市には負けとれんぞ」と汗を拭いた。一方、広場に面した一角で理髪店を営んで53年の塚本正一さん(73)は「昔からの店がどんどんなくなっ

て、さみしい感じもするな」とほつり。

午後2時半 春日原駅(春日市) 北側 踏切が撤去された道路を歩いていた大野城市の自営業、江口雄司さん(61)は「確かに、渋滞は解消して車がスムーズに行き来しているようだ」と感じる。一方で、今後の高架下の利用については「福岡市の高宮などほかの地域を見ると、駐車場になっているところが多いと感じる。有効な利用策を検討してほしい」と注文した。